

2

強固なグローバルネットワーク

グローバル・アライアンスによる、技術・イノベーションの取り組み

イタリア・Geico S.p.A.社での 取り組み

2011年5月に当社とイタリアのGeico S.p.A.社(以下ジェイコ社)は戦略的なグローバル・アライアンスを結びました。それぞれが持つ技術面および市場面での強みを、互いのシナジー効果により強化し、塗装技術のさらなるエンジニアリング力強化と業容拡大とにつなげてきました。当社グループは、グローバル戦略において重要なパートナーであるジェイコ社と連携することで、グローバル社会からますます必要とされる企業を目指しています。

ジェイコ社について

ジェイコ社は、イタリア・ミラノに所在する塗装システム事業のエンジニアリング会社です。50年以上の歴史を有し、独自の技術や欧米系の自動車メーカーを中心としたさまざまな顧客への営業力、世界の幅広い地域への展開などを強みとしています。

従業員は企業にとっての重要な資源という考えから、近年は、働きやすい職場環境づくりや人材開発にも重点的に取り組んでおり、「GREAT PLACE TO WORK ITALY(働きがいのある会社)」ランキングで入賞するなど、職場環境や企業文化が評価されています。



ジェイコ社の企業戦略の重点ポイント

- 強力な人材開発
- 技術、プロセス、製品の持続的なイノベーション
- 技術とノウハウへの積極的投資
- グローバル展開と新規顧客の獲得
- 営業面・技術面におけるグローバルレベルでの連携
- プロジェクト管理のさらなる向上
- 固定費の体系的な管理

ジェイコ社と大気社のパートナーシップの目的

- 持続可能性と財務上の安定
- 納期と価格を両立させた競争力のあるソリューション
- 技術組織、世界的なインフラストラクチャーの垂直化
- 製品開発とプロジェクト管理の革新的なアプローチ
- エコロジー、省エネルギー分野における持続的なソリューション

研究開発の取り組み～パルディスイノベーションセンター

アライアンスを支える研究開発施設

2013年5月10日、ジェイコ社はパルディスイノベーションセンター(Pardis Innovation Centre)を開設しました。本施設は自動車塗装工場向けの技術開発を担う、大気社-ジェイコ アライアンスのグローバルな研究開発拠点で、環境負荷低減のための塗装技術を開発しています。

合計3,600平方メートル、ジェイコ社の従来の2倍の規模となる施設には、さまざまな技術の課題解決のため、40以上の実用的な試作モデルが展示されています。お客さまや取引先の方が、各塗装工程の新技術を見学することも可能です。

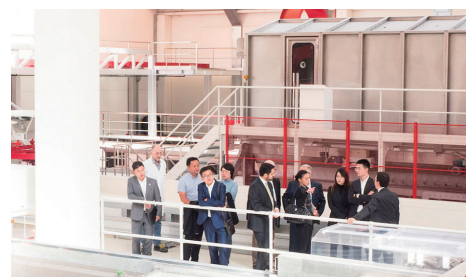


クライアントとのコミュニケーションの場としての活用～「新たな試みのための一日」

パルディスイノベーションセンターでは、「新たな試みのための一日(Experiment Day)」というイベントを開催しています。お客さまごとに半年もしくは1年に一度、個別の「新たな試みのための一日」を設けています。

このイベントは、お客さまのニーズに基づき、ジェイコ社の専門チームが丸一日かけて、個別に実験や試作を行うものです。

ジェイコ社では、これまでに60社以上の自動車メーカーと150回以上の「新たな試みのための一日」を実施しました。こうした機会を設けたことで、お客さまとのコミュニケーションが格段に向上しました。



完全自給自足型塗装プラントを実現した、パルディスプロジェクト

2005年に発足された、ジェイコ社のパルディスプロジェクト (Pardis project) では、CO₂排出ゼロの「完全自給自足型塗装プラント」の設計を目指すことが掲げられました。プロジェクトは当初、2020年6月16日の達成を目標に進められましたが、目標より3年も早い2017年には、世界初の完全自給自足型塗装プラントが実現しました。

ジェイコ社のプラントでは、車両1台当たりの塗装に要するエネルギー消費を2005年の900kWhから270kWhへと70%削減させ、電力の供給については再生可能エネルギーを活用しています。

このプロジェクトの達成においては、パルディスイノベーションセンターが重要な役割を果たしました。



ジェイコ社におけるエネルギー消費量管理の取り組み

	目指したこと	重点取り組み	成果
2005-2012	新しい塗装技術の活用とさらなる技術革新品質と省エネルギーの最適な組み合わせを追求した技術的な生産サイクルの導入	塗料転写の効率化、生産量変動への柔軟な対応、コンパクトな技術サイクルの導入、塗装工程の水循環におけるゼロエミッション、排出物抑制の規制値を確実にクリア	エネルギー消費量が半減 約900kWh→約460kWh (車両1台当たりの塗装に要するエネルギー)
2012-2015	塗装以外の生産工程から流用した省エネルギー技術を活用し、エネルギー効率を最大化	段階的なエネルギー回収(カスケード利用)とエネルギーロスの削減	エネルギー消費量が半減 約460kWh→約270kWh (車両1台当たりの塗装に要するエネルギー)
2015-2019	従来の化石燃料に代わる再生可能エネルギーの活用 エネルギーのベストミックスの追求	エネルギー消費の分析・気候条件などがもたらす影響の可視化・エネルギー配分の最適化などを可能とするツールの作成	下記ソフトウェアの開発により、エネルギー配分の最適化や消費量の管理が可能になる。 J-Power:各現場に応じた再生可能代替エネルギー源の最適な混合割合を算出 GEM(GEICO ENERGY MANAGEMENT): 生産ラインのエネルギーベクトルをモニタリングし、エネルギー消費量を管理

今後の取り組み

今後は、生産量変動に対する柔軟なソリューションのさらなる追求(固定エネルギー消費の抑制)や電気自動車、水素自動車などの新たな技術や製造工程への対応に取り組んでいきます。あわせて、引き続きソフトウェアに関連するイノベーションと、プロジェクト完了までの時間短縮というお客様の要望に応えるため、当社の高度な制御と自動化システムを紹介する場としてパルディスイノベーションセンターを活用していく予定です。

ジェイコ社 より



会長兼社長兼
最高経営責任者
Daryush Arabnia
ダリッシュ アラブニア

ジェイコ社にとって研究開発は、会社の原動力であり、私たちの未来を切り拓いていく最重要事項です。

パルディスイノベーションセンターは、お客さまに対し、ジェイコのアイデンティティを明示するという趣旨に基づいて設立されました。技術的な優位性だけでなく、ジェイコの核にある精神性や文化を伝える場でもあります。プティックのような穏やかで温かい環境で、先進的なテクノロジーに触れることができます。

研究開発の拠点としてアイデアをテストし、試作モデルを製品化する他に、お客さまや金融機関、学术界をはじめとするステークホルダーとの関係を強化する上での重要な拠点としても機能しています。

今後はジェイコ社の技術だけでなく、大気社グループにとっての技術のショーケースにしていきたいと考えています。